



# 11月の園だより

令和7年11月 富田林市立錦郡幼稚園

## ともに生きる

～ 「そうなんだ！」 知の探究から ～

先月中旬から一気に気温が下がり、本格的な秋がやってきました。日本独特の春夏秋冬(四季)の素敵な自然風景も、温暖化の影響もあって、やがて夏冬のみ(二季)になり、生態系にも大きな影響が及ぶだろうとも言われています。今、私達にできることは何なのでしょう。

過日、南門(正門)の園内側の白堀に『カタツムリ』の親子を見つけました。それから、毎日見守りを続けています。

「この時期に『カタツムリ』とは？」疑問とともにちょっとした探究心が芽生えました。『アジサイ』の花には、『カタツムリ』がよく似合う、これは梅雨時(5月下旬から7月上旬:地域や年により時期は異なる)なのに、どうして今なのか? いろいろと調べてみて、『カタツムリ』は梅雨の時期と秋雨の頃(まさに今)に目にすることが多いこと、それは、雨のため水分を容易に摂取することができるとともに、動きやすい(体の乾きを防ぐことができる)ということに起因することが分かりました。更に驚いたのは、『カタツムリ』は『アジサイ』の葉をほとんど食べないのだそうです。てっきり相思相愛の関係と思っていたのですが、『アジサイ』の葉は有毒性があるらしく、餌としても避けた方がよいとのことでした。

「地面や葉ではなく、水分のないコンクリートの堀に『カタツムリ』がくっついてるのはどうしてか？」こちらは、殻を丈夫にするために、コンクリートを食べる(雨によって、コンクリートに含まれている炭酸カルシウムが溶け出し、それを摂取する)ためのようです。

「ずっと動いていないのは、もう命が絶えてしまったのかな？」これには、動けなくなって絶命しているか、殻の中に身を潜めて次の雨を待っているかという、2つのことが考えられるようでした。

「『ナメクジ』とは違う種類なの?」『カタツムリ』と『ナメクジ』の主な違いは殻の有無ですが、どうやら『カタツムリ』が進化の過程で、一部が「歩くの重い邪魔やなあ」と考え、殻を脱いだ(殻が退化した)ものが『ナメクジ』となったそうです。「ちょっと損したわ」こんな『ナメクジ』のつぶやきが聞こえてくるかもしれませんね・・・。

本園のこどもたちも、たくさんの生き物と一緒に日々生活し、さまざまな発見をしています。「そうなんだ！」驚きあり、感動ありです。この体験が、今後の人生のさまざまな場面で生きてきます。生き物も含む自然を守り育てることは、こどもたちだけでなくすべての人間の生き方にも大きくかわることなのです。「さあ、やってみよう！」

園長 塩野 義和